新版（しんぱん）　指導要文集（しどうようもんしゅう）

第一章（だいいっしょう）　信心の基本（しんじんきほん）

一生成仏（いっしょうじょうぶつ）・仏界湧現（ぶっかいゆげん）

「衆生をして仏知見を開かしめんと欲す」。涅槃経に云わく「大乗を学する者は、肉眼有りといえども、名づけて仏眼となす」等云々。末代の凡夫、出生して法華経を信ずるは、人界に仏界を具足するが故なり。

（006 如来滅後五五百歳始観心本尊抄
一生成仏・仏界湧現127ページ-15行）

十界互具、これを立つるは、石中の火・木中の花、信じ難けれども、縁に値って出生すればこれを信ず。人界所具の仏界は水中の火・火中の水、最もはなはだ信じ難し。

（006 如来滅後五五百歳始観心本尊抄
一生成仏・仏界湧現128ページ-15行）

「我がごとく等しくして異なることなからしめん。我が昔の願いしところのごときは、今、すでに満足しぬ。一切衆生を化して、皆仏道に入らしむ」。妙覚の釈尊は我らが血肉なり。因果の功徳は骨髄にあらずや。

（006 如来滅後五五百歳始観心本尊抄 一生成仏・仏界湧現 135ページー3行）

「（法華経を説いてあらゆる衆生に即身成仏の教えを与えたので）仏と衆生は等しくなり差別がなくなった。仏がその昔に願ったところのあらゆる衆生を悟りの境地に至らせたいとの誓い

が、今はすでに満足し、あらゆる衆生をすべて成仏への道に入らしめることができた」と（法華経方便品に）あります。総じて御本尊を信じ持つとき、私たちの血や肉は妙覚の釈尊と同じであり、仏が久遠の遠い昔から積んできた、すべての功徳が骨の髄となっていくのです。

されば、この三如是を三身如来とは云うなり。この三如是が三身如来にておわしましけるをよそに思いへだてつるが、はや我が身の上にてありけるなり。かく知りぬるを、法華経をさとれる人とは申すなり。

（019十如是事

一生成仏・仏界湧現355ページ-3行）

「妙法蓮華経の体のいみじくおわしますは、いかような
る体にておわしますぞ」と尋ね出だしてみれば、我が
心性の八葉の白蓮華にてありけることなり。

（019十如是事

一生成仏・仏界湧現356ページ-15行）

この妙法蓮華経とは、我らが心性、総じては一切衆生の心性、八葉の白蓮華の名なり。これを教え給う仏の御詞なり。無始より以来、我が身中の心性に迷って生死を流転せし身、今この経に値い奉って三身即一の本覚の如来を唱うるに顕れて現世にその内証成仏するを、即身成仏と申す。

（020 一念三千法門

一生成仏・仏界湧現 362ページ－5行）

妙法蓮華経（みょうほうれんげきょう）と唱（とな）うる時（とき）、心性（しんしょう）の如来顕（にょらいあらわ）る。

（020 一念三千法門（いちねんさんぜんほうもん）

一生成仏（いっしょうじょうぶつ）・仏界湧現（ぶっかいゆげん）362ページ-9行）

法華経の行者は、如説修行せば、必ず一生の中に一人も残らず成仏すべし。譬えば、春夏、田を作るに、早・晩あれども、一年の中には必ずこれを納む。法華の行者も、上・中・下根あれども、必ず一生の中に証得す。

（020 一念三千法門

一生成仏・仏界湧現 363ページ-9行）

「秘密の奥蔵を発く。これを称して妙となす」。妙楽大師、この文を受けて云わく「発とは開なり」等云々。

妙と申すことは、開ということなり。

世間に、財を積める蔵に鑰なければ、開くことかたし。開かざれば、蔵の内の財を見ず。

（033 法華経題目抄（妙の三義の事）

一生成仏・仏界湧現536ページ-10行）

一遍(いっぺん)この首題(しゅだい)を唱(とな)え奉(たてまつ)れば、一切衆生(いっさいしゅじょう)の仏性(ぶっしょう)が皆(みな)よば呼れてここに集(あつ)まる時(とき)、我(わ)が身(み)の法性(ほっしょう)の法報応(ほっぽうおう)の三身(さんじん)ともにひかれて顕(あらわ)れ出(い)ずる、これを成仏(じょうぶつ)とは申(もう)すなり。例(れい)せば、籠(かご)の内(なか)にある鳥(とり)の鳴(な)く時(とき)、空(そら)を飛(と)ぶ衆鳥(しゅちょう)の同時(どうじ)に集(あつ)まる、これを見(み)て籠(かご)の内(なか)の鳥(とり)も出(い)でんとするがごとし。

（034 聖愚問答抄(しょうぐもんどうしょうじょう)上

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん) 578ページ-11行）

正直に方便を捨てて、ただ法華経を信じ、南無妙法蓮華経と唱うる人は、煩悩・業・苦の三道、法身・般若・解脱の三徳と転じて、三観・三諦即ち一心に顕れ、その人の所住の処は常寂光土なり。能居・所居、身土、色心、俱体俱用、無作の三身の本門寿量の当体蓮華の仏とは、日蓮が弟子檀那等の中のことなり。

（038 当体義抄

一生成仏・仏界湧現 617ページ-1行）

しかるに、日蓮が一門は、正直に権教の邪法・邪師の邪義を捨てて、正直に正法・正師の正義を信ずるが故に、当体蓮華を証得して常寂光の当体の妙理を顕すことは、本門寿量の教主の金言を信じて南無妙法蓮華経と唱うるが故なり。

（038 当体義抄

一生成仏・仏界湧現 626ページ-10行）

一度妙法蓮華経と唱うれば、一切の仏、一切の法、一切の菩薩、一切の声聞、一切の梵王・帝釈・閻魔法王・日月・衆星・天神・地神、乃至地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天、一切衆生の心中の仏性をただ一音に喚び顕し奉る功徳、無量無辺なり。

我が己心の妙法蓮華経を本尊とあがめ奉って、我が己心中の仏性、南無妙法蓮華経とよびよばれて顕れ給うところを仏とは云うなり。譬えば、籠の中の鳥なけば、空とぶ鳥のよばれて集まるがごとし。空とぶ鳥の集ま

れば、籠の中の鳥も出でんとするがごとし。口に妙法を
よび奉れば、我が身の仏性もよばれて必ず顕れ給
う。梵王・帝釈の仏性はよばれて我らを守り給う。仏
菩薩の仏性はよばれて悦び給う。

（048 法華初心成仏抄
一生成仏・仏界湧現 703ページー16行）

ひとたび御本尊に向かって南無妙法蓮華経と唱えれば、あらゆる
仏、あらゆる法、あらゆる菩薩、あらゆる声聞、あらゆる梵王、
帝釈、閻魔法王、日月、衆星、天神、地神、さらに地獄、

餓鬼、畜生、修羅、人天、あらゆる人びとの心中にある仏性を、ただ題目の一声に呼びあらわすのですから、御本尊の功徳に限りないものなのです。自分自身の生命に備わっている妙法蓮華経を御本尊として、南無妙法蓮華経と唱えていけば、自身の生命にそなわる仏界が呼び呼ばれて涌現するのです。たとえば、かごのなかの鳥がさえずれば、空を飛んでいる鳥がその鳴き声によばれて集まってくるようなものです。また、空を飛ぶ鳥が集まってさえずれば、今度はかごのなかの鳥も外に出ようとするようなものです。口に南無妙法蓮華経と唱えれば、自己の生命のなかの仏性もよばれて

かならずあらわれてくるのです。それに呼応(こおう)して、今度(こんど)は梵天(ぼんてん)、帝釈(たいしゃく)などの諸天善神(しょてんぜんじん)の仏性(ぶっしょう)が呼(よ)びあらわれて私(わたし)たちを守(まも)るだけでなく、あらゆる仏(ほとけ)や菩薩(ぼさつ)の仏性(ぶっしょう)も呼(よ)ばれて喜(よろこ)ぶのです。

己心と仏心とは異ならずと観ずるが故に、生死の夢を覚まして本覚の寤に還るを、即身成仏と云うなり。即身成仏は、今、我が身の上の天性・地体なり。煩いも無く、障りも無し。衆生の運命なり、果報なり、冥加なり。

（049 三世諸仏総勘文教相廃立（総勘文抄）
一生成仏・仏界湧現 716ページ-1行）

「一切法は皆これ仏法なり」と通達し解了する、これを名字即となす。名字即の位より即身成仏す。故に、円頓の教には次位の次第無し。

（049 三世諸仏総勘文教相廃立（総勘文抄）

一生成仏・仏界湧現 717ページ-17行）

詮ずるところ、己心と仏身と一なりと観ずれば、速やかに仏に成るなり。故に、弘決にまた云わく「一切の諸仏、己心は仏心と異ならずと観じたもうに由るが故に、仏に成ることを得たもう」已上。これを観心と云う。実に己心と仏心と一心なりと悟れば、臨終を礙ぐべき悪業も有らず、生死に留むべき妄念も有らず。

（049 三世諸仏総勘文教相廃立（総勘文抄）一生成仏・仏界湧現 722ページー5行）

煩悩(ぼんのう)の薪(たきぎ)を焼(や)いて、菩提(ぼだい)の慧火現前(えかげんぜん)するなり。

（095御義口伝(おんぎくでん)

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん)987ページ-7行）

妙覚の釈尊は我らが血肉なり。因果の功徳は骨髄にあらずや。釈には「因を挙げて信を勧む」と。「因を挙ぐ」は、即ち本果なり。今、日蓮が唱うるところの南無妙法蓮華経は、末法一万年の衆生まで成仏せしむるなり。あに「今者已満足」にあらずや。

（095 御義口伝 一生成仏・仏界湧現 1004ページー7行）

妙覚の釈尊は私たち衆生の血や肉であり、因果の功徳は骨の髄ではないでしょうか。（これは師である仏も久遠元初の

自受用身、弟子である衆生もまた久遠元初の自受用身としてあらわれ、自受用身に約して師弟不二であることを明かされています）。また釈（天台大師の法華文句）には「因を挙げて信を勧む」とあり、因を挙げるのがすなわち本果です。（これは仏の種があることを悟らせることを成仏というからです）。いま日蓮が唱えるところの南無妙法蓮華経は、末法万年の衆生を、ことごとく成仏せしめるのです。どうして「今昔已満足」（今昔は已に満足しぬ）でないといえましょうか。

今(いま)、日蓮等(にちれんとう)の類(たぐ)い、南無妙法蓮華経(なんみょうほうれんげきょう)と唱(とな)え奉(たてまつ)る時(とき)、無明(むみょう)の惑障却(わくしょうさ)けて、己心(こしん)の釈迦(しゃか)・多宝住(たほうじゅう)するなり。

（095 御義口伝(おんぎくでん)

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん)1034ページ-1行）

法華経(ほけきょう)を持(たも)ち奉(たてまつ)るとは、我(わ)が身(み)は仏身(ぶっしん)なりと持(たも)つなり。

（095 御義口伝(おんぎくでん)

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん)1035ページー2行）

「八（ひらく）」とは、色心（しきしん）を妙法（みょうほう）と開（ひら）くなり。

（095御義口伝（おんぎくでん）

一生成仏（いっしょうじょうぶつ）・仏界湧現（ぶっかいゆげん）1039ページ－10行）

今(いま)、日蓮等(にちれんとう)の類(たぐ)い、南無妙法蓮華経(なんみょうほうれんげきょう)と唱(とな)え奉(たてまつ)る者(もの)は、

「成就仏身(じょうじゅぶっしん)」疑(うたが)いなきなり

（095御義口伝(おんぎくでん)

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん)1057ページ-17行）

六根清浄の人は「瑠璃」「明鏡」のごとく三千世界を見るという経文なり。今、日蓮等の類い、南無妙法蓮華経と唱え奉る者は、明鏡に万像を浮かぶるがごとく知見するなり。この明鏡とは、法華経なり。別しては宝塔品なり。

（095 御義口伝

一生成仏・仏界湧現 1063ページー4行）

一切即妙法なれば、一心の源底を顕すこと甚妙無外なり。いわゆる、南無妙法蓮華経は不思議なり。

（095 御義口伝

一生成仏・仏界湧現1101ページー1行）

一心に仏を見る心を一にして仏を見る一心を見れば仏なり。

（099 義浄房御書

一生成仏・仏界湧現 1197ページー11行）

そもそも、この経釈の心は、仏になる道はあに境智の二法にあらずや。されば、境というは万法の体を云い、智というは自体顕照の姿を云うなり。しかるに、境の淵ほとりなくふかき時は、智慧の水ながるることつつがなし。この境智合しぬれば、即身成仏するなり。

（165曽谷殿御返事（成仏用心抄）

一生成仏・仏界湧現1433ページ－8行）

およそこの経釈（法華経を解釈した天台大師の法華玄義の文）の意味は、成仏する道は境智の二法のほかにないのです。で

すから、境（きょう）というのは万法（まんぽう）の体（たい）（御本尊（ごほんぞん））をいい、智（ち）というのは自体顕照（じたいけんしょう）の姿（すがた）をいうのです。しかも、境（きょう）のふち（淵（ふち））が際限（さいげん）がないほど深（ふか）いときには、知恵（ちえ）の水（みず）が流（なが）れるのになんの支障（ししょう）もありません。この境（きょう）と冥合（みょうごう）すれば即身成仏（そくしんじょうぶつ）するのです。

仏法の中に内薫外護と申す大いなる大事あり

（210 崇峻天皇御書（三種財宝御書）

一生成仏・仏界湧現 1592ページ－14行）

多宝如来の宝塔を供養し給うかとおもえば、さにては候わず、我が身を供養し給う。我が身また三身即一の本覚の如来なり。

かく信じ給いて南無妙法蓮華経と唱え給え。

（263 阿仏房御書（宝塔御書）

一生成仏・仏界湧現 1733ページー3行）

しかれば、久遠実成の釈尊と皆成仏道の法華経と我ら衆生との三つ全く差別無しと解って妙法蓮華経と唱え奉るところを、生死一大事の血脈とはいうなり。

（276 生死一大事血脈抄 一生成仏・仏界湧現 1774ページー17行）

さて、久遠実成の釈尊（日蓮大聖人）と、あらゆる衆生を成仏せしめる法華経（文底独一本門の大御本尊）と、私たち衆生との三つは、まったく差別がないと信じ理解して、南無妙法蓮華経の題目を唱えていくことを、生死一大事の血脈

というのです。

「阿鼻(あび)の依正(えしょう)は全(まった)く極聖(ごくしょう)の自心(じしん)に処(しょ)し、毘盧(びる)の身土(しんど)は凡下(ぼんげ)の一念(いちねん)を逾(こ)えず」

（280 諸法実相抄(しょほうじっそうしょう)

一生成仏(いっしょうじょうぶつ)・仏界湧現(ぶっかいゆげん)1788ページ－12行）

この宝塔品はいずれのところにか只今ましますらんと
勘かんがえ候えば、日女御前の御胸の間、八葉の心蓮華の
内におわしますと日蓮は見まいらせて候。

（406日女御前御返事（嘱累品等大意の事））

一生成仏・仏界湧現2096ページー3行）

この法華経には、我らが身をば法身如来、我らが心をば報身如来、我らがふるまいをば応身如来と説かれて候えば、この経の一句一偈を持ち信ずる人は、皆この功徳をそなえ候。

（407 妙法尼御前御返事（一句肝心の事）
一生成仏・仏界湧現 2098ページー13行）

さて、この経の題目は、習い読むことなくして大いなる善根にて候。悪人も女人も、畜生も地獄の衆生も、十界ともに即身成仏と説かれて候は、水の底なる石に火のあるがごとく、百千万年くらき所にも灯を入れぬ明ればあかくなる。世間のあだなるものすら、なお、かように不思議あり。いかにいわんや、仏法の妙なる御法の御力をや。我ら衆生の悪業・煩悩・生死果縛の身が、正・了・縁の三仏性の因によりて、即ち法・報・応の三身と顕れんこと、疑いなかるべし。

（407 妙法尼御前御返事（一句肝心の事）
みょうほうあまごぜんごへんじ　いっくかんじんのこと
一生成仏・仏界湧現 2100ページー4行）
いっしょうじょうぶつ　ぶっかいゆげん